

例年より遅い桜の開花となり花見を楽しむ時間もあわただしく、新緑の 5 月となりました。

小中学校、保育園では新入生が元気に登校、登園する光景が見られ、それに倣うかのようにつばめ達も盛んに飛び交い早くも巣作りを始めています。農作業も多忙な時期を迎え、村中が活気に満ちた季節となりました。

#### 『付度（そんたく）』

早くも今年の流行語大賞の候補に挙げられているほど、色々な場面でこの言葉を見聞きし、多くのコラム欄などで取り上げられているとは思いながらもご多分に漏れずということで私も少し……。

この言葉は「他人の心をおしはかること」という意味ですが、日本語は使われる場面や、使う人聞く人によって微妙なニュアンスの違いが出てきます。英語には無い言葉で、通訳が訳せなかったと話題にもなりました。性善説を信奉する私としては、限りなく良い意味でこの言葉を使いたいと思っております。

さて、本題に入り、本稿では東白川村の地域おこし協力隊員について私のこの制度活用の目標とするところを記してみたいと思います。地域おこし協力隊制度は 2009 年に創設された制度で、都市から地方への人口、特に働き手の世代や若者の移住を促進する事を目的として、国が人件費などの大部分を特別交付税で 3 年間措置し、地方の自治体が行きやすい制度として発足しています。

本村では平成 25 年度に 2 名、平成 27 年度に 3 名、平成 28 年度に 4 名の隊員が採用され、現在は 6 名が村内で活動してくれており、初代の隊員で任務終了後も東白川村に残って活躍してくれている元隊員も入れると 7 名になります。

初代の 2 名はフォレストスタイル事業、空き家対策と地域振興の仕事を担当するという前提で募集しました。2 期目の 3 名は特に仕事を特定せずこの村でやりたい事を見つけて地域の皆さんと協力し合っ村の活性化を目指して活動して行くことを目的として募集しました。現在も木工や白川茶の振興に取り組んでくれています。そして 3 期目の 4 名は、第三セクターである「株式会社ふるさと企画」、「有限会社新世紀工房」、「みのりの郷東白川株式会社」への派遣社員として、3 年間は地域おこし協力隊として働き、さらに任務終了後はそれぞれの会社の幹部社員となってもらうことを目的として募集しました。そのため勤務先を決めるにあたっては、受け入れ先の社長と面接をして十分な相互理解の上、着任してもらいました。それぞれの会社の仕事内容は違いますが目的とするところも異なりますが、4 名の隊員の今後の活躍に大いに期待しているところであります。

このように本村の地域おこし協力隊員は、制度の目的としている都市からの若者の移住ということについては共通しておりますが、期待されている任務はそれぞれ違うという事をご理解いただき、隊員達が早く東白川村に溶け込み澁刺(はつらつ)と活躍できるようご支援をお願いいたします。

平成 29 年 5 月

東白川村長 今 井 俊 郎